

化学設備（設置・移転・変更）届付帯調査表

届出年月日 令和 年 月 日

事業場名

記入担当者職氏名

1. 製造又は取扱い物質の物性及び危険性

物質名	使用範囲	示性式又は構造式	状態 (15)	沸点 ()	融点 ()	蒸気密度 (空気=1)	引火点 ()	発火点 ()	爆発範囲 (vol%)	危険性	酸性・アルカリ性の別

- 注 1 使用範囲には、反応物質、中間体、副産物、溶媒、触媒等の別を記載のこと。
- 2 示性式又は構造式欄について欄内記入困難な場合は、裏面に記載のこと。
- 3 状態には、15 においての気体、液体、固体の別を記載のこと。
- 4 危険性欄は、下記の事項に該当する場合、その危険性を記載のこと。
- イ 爆発性... 加熱により分解爆発するもの又は重量 5kg の落槌を用い落高 1m 未満で分解爆発するもの。
- ロ 酸化性... 加熱、圧縮又は強酸、アルカリ等の添加により強い酸化性を表すもの。
- ハ 禁水性... 吸湿又は水との接触により発熱又は発火するもの。
- ニ 混合危険性... 他の物質と混合又は接触して発火の危険のあるもの。
- ホ 自然発火性... 他から火源を与えず物質が常温の空気中において自然に発熱し、それが蓄積され発火点に達し燃焼を起すもの。

2. プロセス (注 プロセスフローシートを添付のこと)

(1) 反応工程

イ 反応の化学方程式 (反応熱も併記のこと。)

a 主反応

b 副反応

ロ 反応条件

a 反応温度

運転温度 _____

設計温度 _____

b 圧 力

運転圧力 _____ MPa

設計圧力 _____ MPa

c 標準仕込量

_____ kg

d 反応状態

均一系 (イ 気相反応 液相反応) 不均一系 (イ 気液反応 液液反応 八 気固反応 二 液固反応 ホ 固固反応)

e 触媒仕様の有無 有 無

ハ 反応装置 (該当する箇所を で囲って下さい。)

a 作業方法

() 連続式反応

() バッチ式反応 (1. 同一製品を製造 2. 異種製品を製造)

b 安全装置

無

有

種類...安全弁 破裂版 (材質 _____ 厚み _____ mm) その他 (装置の概要 _____)

設定圧力 _____ MPa

排出ガス又は蒸気の種類 (_____)

排出ガス又は蒸気の処理方法 大気開放 その他 (処理方式の概要 _____)

3. 静電気

静電気の発生が予測される化学設備	静電気発生防止又は除去の方法

4. 化学設備の設置場所等

(1) 設置場所

イ 建築物の外部

ロ 建築物の内部

建築物の構造	木造、鉄筋、鉄骨造等の耐火構造				
設置階	地下	1階	2階	3階	4階以上(階)
設置場所各部の材料					
イ 柱	全て不燃性	一部可燃性(その部分)			全て可燃性
ロ 壁	"	"	()	"
ハ 床面	"	"	()	"
ニ 梁	"	"	()	"
ホ 階段	"	"	()	"
ヘ 屋根又は天井	"	"	()	"
通風・換気	自然通風 強制換気(全体換気(換気量 m ³ /min) 局所排気)				

(2) 出入口

	個数	構造			
1階		引戸	外開戸	内開戸	その他()
2階		引戸	外開戸	内開戸	その他()
3階		引戸	外開戸	内開戸	その他()
その他(階)		引戸	外開戸	内開戸	その他()

注 出入口のうち、避難階(直接地上に通ずる出入口の有る階をいう。)に設けた出入口の個数を()書きのこと。

(3) 非常用の警報用設備

無 有(自動警報設備 非常ベル その他())

5. 危険場所の設定等

(1) 爆発・火災を防止するための危険場所（爆発性混合ガス又は蒸気が存在し、爆発・火災の発生の恐れのある作業場所）の設定基準の有無

有 { その基準の概要

(2) 危険場所に設置する電気機械器具の設備基準の有無

有 { その基準の概要

6. 危険場所における防爆電気機械器具の設置状況

防爆構造の種類	設置器具の種類と個数		
	モーター	照明灯	その他 (スイッチ等)
耐 圧 防 爆 構 造			
内 圧 防 爆 構 造			
安 全 増 防 爆 構 造			
油 入 防 爆 構 造			
本 質 安 全 防 爆 構 造			
特 殊 防 爆 構 造			
粉じん防爆普通防じん構造			
粉じん防爆特殊防じん構造			